

決算概要

2021年5月19日

常務取締役 経営企画本部長

余語 岳仁

目次

新型コロナウイルスの事業への影響	2
2020 年度 4Q 業績	3
損益比較 為替影響控除	4
事業セグメント別 売上高・営業利益	5
セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）	6
セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）	7
セグメント業績 - ②医薬関連事業	8
セグメント業績 - ③ファーマパッケージング事業	9
セグメント別製品群の売上高	10
製品分類表	11
製商品別売上高	12
地域別売上 売上高・構成比	14
為替感応度	15
販売費および一般管理費	16
設備投資額・減価償却費	17
主要会社別 期中の設備投資	18
通期予想	19
中期経営計画における主要 KPI	20

新型コロナウイルスの事業への影響

製造・購買・物流

- インド工場(ダイライザ) : 既存ラインは通常稼働
新規ラインの工事はロックダウンにより4月末に中断、再開およびライン稼働時期も未定
- タイ工場(シリンジ) : ワクチン用シリンジは、2021年度に約1億本の生産見込
- 上記以外の国内外工場 : 通常稼働

販売

- 透析用医療機器 : ダイライザは日本と北米、アジアで堅調、南米はコロナの影響で減収
- 循環器用医療機器 : 中国の大口入札獲得により1-3月期(4Q)売上が前年同期比9.7%増、販売傾向は対前年並み
- 外科用医療機器 : 補助心臓・人工肺の販売増加は継続
- 医療用消耗品 : 手袋・マスク・ガウンなどは国内・海外ともに地域を問わず需要は継続
- 自社医薬品 : 経口剤、注射剤、外用剤それぞれの需要が回復し、1-3月期(4Q)売上は前年同期比11.4%増
- 受託医薬品 : 鏡石工場の製造停止により経口剤の出荷が減少
- ファーマパッケージング : 海外におけるワクチン用バイアルとバイオ製剤用シリンジの販売が堅調

臨床試験

臨床試験の実施や承認申請への大きな影響はなし

過疎地域における5G を活用した遠隔診療・リハビリ指導の実証実験を実施(2月22日)

N T Tデータ経営研究所、N T Tドコモ東海支社、新城市民病院、名古屋大学、新城市、理化学研究所、ソシオネクストとの共同事業

「ニプロVA シリンジ」(残液量の少ないワクチン接種用シリンジ)の承認取得(3月25日)

ファイザー社製新型コロナウイルスワクチン 1 瓶から7 回分の薬液が採取可能



2020年度4Q 業績

(億円)

	2019年度	2020年度	増減	2021年度 予想
売上高	4,425.1	4,555.5	+130.4 +2.9%	4,950.0
売上原価	3,083.0	3,167.1	+84.1 +2.7%	3,435.0
売上総利益	1,342.1 30.3%	1,388.4 30.5%	+46.3 +3.4%	1,515.0 30.6%
販売管理費	1,077.9 24.4%	1,112.1 24.4%	+34.2 +3.2%	1,240.0 25.1%
営業利益	264.2 6.0%	276.2 6.1%	+12.0 +4.5%	275.0 5.6%
経常利益	234.1 5.3%	262.6 5.8%	+28.5 +12.2%	267.0 5.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	△ 122.8 -	142.0 3.1%	+264.8 -	148.0 3.0%
IFRSに準拠した場合の 当期純利益(概算額)	△ 80.3	173.1	+253.4 -	182.0

2020年度四半期別内訳			
1Q	2Q	3Q	4Q
1,089.2	1,133.3	1,188.3	1,144.7
752.4	785.6	819.9	809.2
336.7 30.9%	347.7 30.7%	368.5 31.0%	335.5 29.3%
267.8 24.6%	271.3 23.9%	282.7 23.8%	290.3 25.4%
68.9 6.3%	76.4 6.7%	85.7 7.2%	45.2 3.9%
62.0 5.7%	63.0 5.6%	72.1 6.1%	65.5 5.7%
30.2 2.8%	24.5 2.2%	49.0 4.1%	38.3 3.3%

- **売上高** コロナで低下していた需要も回復傾向で、売上高が増加
- **売上総利益** 製造原価の低減により、売上総利益率が増加
- **営業利益** 営業利益率は前年並
- **経常利益** 為替差益の増加により、経常利益が増加
- **当期純利益** 2Qの米国訴訟、4Qの地震災害による特別損失を計上するも、当期純利益は増加

(※1) 売上総利益への
未実現利益の影響額
2019年度 △13.7億円
2020年度 3.7億円

(※2) 為替損益
2019年度 △29.9億円
2020年度 8.5億円



損益比較 為替影響控除

(億円)

	2019年度 [a]	2020年度 [b]	為替の影響 (※1) [c]	為替影響控除後 2020年度 4Q [d=b-c]	増減額 [d-a]	増減率 [d÷a]
売上高	4,425.1	4,555.5	△35.3	4,590.8	+165.7	+3.7%
売上原価	3,083.0	3,167.1	△19.9	3,187.0	+104.0	
売上総利益	1,342.1	1,388.4	△15.4	1,403.8	+61.7	+4.6%
(%)	30.3%	30.5%		30.6%		+0.2%
販管費	1,077.9	1,112.1	△9.3	1,121.4	+43.5	
営業利益	264.2	276.2	△6.0	282.2	+18.0	+6.8%
(%)	6.0%	6.1%		6.1%		+0.2%
営業外収益	51.2	55.3		55.3	+4.1	
営業外費用	81.2	68.9	△38.5	107.4	+26.2	
経常利益	234.1	262.6	+32.5	230.1	△4.0	△1.7%
特別利益	47.9	28.7		28.7	△19.2	
特別損失	383.6	116.2		116.2	△267.4	
税引前利益	△101.5	175.1	+32.5	142.6	+244.1	△240.5%
法人税等	14.3	24.8	+4.6	20.2	+5.9	
非支配株主に 帰属する純利益	6.8	8.2		8.2	+1.4	
当期利益	△122.8	142.0	+27.9	114.1	+236.9	△192.9%

期中平均レート	2019年度 1~12月	2020年度 1~12月
1 USD	109.24	106.43
1 EUR	122.15	121.97
1 中国元	15.82	15.42



事業セグメント別 売上高・営業利益

			【増減額】	【増減率】	(億円) 【21年度予想】
売上高					
医療関連事業	2020年度	3,476.4	+118.8	+3.5%	3,836.6
	2019年度	3,357.6			
医薬関連事業	2020年度	685.6	△17.9	△2.5%(※1)	763.0
	2019年度	703.5			
ファーマパッケージング事業	2020年度	386.5	+24.3	+6.7%	446.3
	2019年度	362.1			
営業利益					
医療関連事業	2020年度	394.1	+31.6	+8.7%	382.3
	2019年度	362.4			
医薬関連事業	2020年度	100.7	△31.2	△23.7%(※1)	102.3
	2019年度	131.9			
ファーマパッケージング事業	2020年度	19.9	+13.1	+197.0%	21.2
	2019年度	6.7			

(※1) 21年度よりJMIファーマ分含む(売上高：40.3億円、営業利益：4.7億円)

- **医療事業** ダイアライザは日本と北米、アジアで堅調、南米はコロナの影響で減収。カテーテルは3Qから前年並みに回復したが、4Q累計では対前年を下回った。手袋・マスク・ガウンなどは国内、北中南米で好調のため、売上・利益ともに増加。
- **医薬事業** 感染症経口薬(外来用)や抗菌注射薬(手術用)は回復傾向にあるものの、売上・利益ともに減少。
- **ファーマパッケージング事業** 米国・欧州・国内でのバイアルや米国・欧州でのシリンジの販売増加により、売上・利益ともに増加。



セグメント業績 - ①医療関連事業（国内）

				(億円)			
					【増減額】	【増減率】	【21年度予想】
国内事業	2020年度	1,932.6			+50.3	+2.7%	2,087.2
	2019年度	1,882.3					
医療機器	2020年度	1,109.2			+41.7	+3.9%	1,273.6
	2019年度	1,067.5					
医薬品	2020年度	823.4			+8.7	+1.1%	813.5
	2019年度	814.7					
ダイアライザ	2020年度	217.1			+6.3	+3.0%	234.2
国内売上高	2019年度	210.8					

- 医療機器** ダイアライザ、透析関連製品は堅調。
 透析装置は2Q以降前年並みに回復し、4Q累計で対前年を超過。
 人工心臓・人工心臓などの外科用製品および手袋・マスク・ガウンなどの消耗品は引き続き堅調。
 カテーテルは3Q以降前年並みに回復、1-3月期(4Q)では中国の大口入札獲得により
 前年同期比9.7%増も、4Q累計では対前年を下回った。
- 国内医薬** 感染症経口薬(外来用)は3Qから売上が前年並みに回復したが、4Q累計では対前年を下回った。
 抗菌注射薬(手術用)は3Qより前年並みに回復し、4Q累計で対前年を超過。
 外用剤は堅調。

セグメント業績 - ①医療関連事業（国際）

				(億円)	
		【増減額】	【増減率】	【21年度予想】	
国際事業	2020年度	1,470.5	+59.2	+4.2%	1,616.8
	2019年度	1,411.3			
B2B(他社ブランド)	2020年度	191.1	△17.0	△8.2%	201.6
	2019年度	208.1			
ニプロブランド	2020年度	1,279.4	+76.3	+6.3%	1,415.1
	2019年度	1,203.1			
アメリカ	2020年度	573.2	+71.6	+14.3%	590.8
	2019年度	501.6			
ヨーロッパ	2020年度	339.9	+14.1	+4.3%	382.6
	2019年度	325.8			
アジア	2020年度	216.9	△9.6	△4.2%	241.7
	2019年度	226.5			
中国	2020年度	149.2	0.1	+0.1%	200.0
	2019年度	149.1			
ダイアライザ	2020年度	495.6			530.1
海外売上高	2019年度	510.9	△15.3	△3.0%	

➤B2B セーフタッチPSV・採血針の販売が減少。

➤ニプロブランド ダイアライザは北米とアジアで堅調、南米はコロナの影響で減収。
透析機器は、継続して軟調。北中南米での手袋やマスク・ガウンなどは堅調。



セグメント業績 - ② 医薬関連事業

(億円)

			【増減額】	【増減率】	【21年度予想】
医薬関連事業	2020年度	685.6	△17.9	△2.5%	※1) 763.0
	2019年度	703.5			

< 受託売上高内訳 >

ジェネリック品	2020年度	405.2	+3.2	+0.8%	※1) 450.1
	2019年度	402.0			
先発品 長期収載品	2020年度	239.7	△18.3	△7.1%	269.9
	2019年度	258.0			
OTC 原薬他	2020年度	40.6	△2.9	△6.7%	43.0
	2019年度	43.5			

(※1) 21年度よりJMIファーマ分含む(売上高：40.3億円)

- ジェネリック品** 感染症経口薬(外来用)、抗菌注射薬(手術用)の需要回復に加え、リュープロレリンの新ライン稼働により、3Qから販売が増加。
- 先発/長期収載品** 感染症経口薬(外来用)、抗菌注射薬(手術用)は累計で前年を下回っているが、3Q以降回復傾向。ニプロファーマの鏡石工場(経口剤)が地震で一時操業停止したことにより販売が減少。
- OTC/原薬他** インバウンドのOTC貼付剤注文が減少したことにより、累計で前年を下回っているが、2Q以降回復傾向。



セグメント業績 - ③ファーマパッケージング事業

(億円)

			【増減額】	【増減率】	【21年度予想】
ファーマパッケージング事業	2020年度	386.5	+24.3	+6.7%	446.3
	2019年度	362.1			
< 地域別売上高内訳 >					
日本	2020年度	111.8	+3.7	+3.4%	109.6
	2019年度	108.1			
海外	2020年度	274.7	+20.7	+8.1%	336.7
	2019年度	254.0			
ヨーロッパ	2020年度	136.4	+13.1	+10.6%	170.0
	2019年度	123.3			
アメリカ	2020年度	88.2	+7.4	+9.2%	93.4
	2019年度	80.8			
中国	2020年度	38.5	+2.2	+6.1%	62.8
	2019年度	36.3			
インド	2020年度	11.4	△2.1	△15.6%	10.5
	2019年度	13.5			

➤ **日本** バイアルの販売が増加。

➤ **海外** 米国・欧州でのワクチン向けバイアルやバイオ製剤用シリンジの販売が増加。



セグメント別製品群の売上高

(億円)

製品	セグメント	医療関連 事業	医薬関連 事業	ファーマパケ ージング事業	その他 事業	合計	対前年増減額 (増減率)
医療機器		2,553.9	0.0	28.0	0.0	2,582.0	+95.8 (+3.9%)
医薬品		921.7	685.6	3.2	0.0	1,610.5	+9.1 (+0.6%)
ファーマパッケージング		0.2	0.0	354.1	0.0	354.4	+22.3 (+6.7%)
その他		0.5	0.0	1.0	6.9	8.5	+3.0 (+55.2%)
合計		3,476.4	685.6	386.5	6.9	4,555.5	+130.4 (+2.9%)
対前年増減額 (増減率)		+118.8 (+3.5%)	△17.9 (△2.5%)	+24.3 (+6.7%)	+5.1 (+297.1%)	+130.4 (+2.9%)	

(※1) 自社ジェネリック医薬品

(※2) 受託製造医薬品

(※3) 注射針類、輸液関連製品、検査製品

製品分類表

医療機器区分	
ダイアライザ	ダイアライザ（人工腎臓透析器）、HDFフィルター
透析機器	透析システム、メンテナンス、透析機器部品
その他透析関連	血液回路、AVFニードル（翼付留置針） 他
注射針類	PSVニードル（翼付留置針）、セーフタッチニードル 他
バスキュラー関連製品	循環器治療用カテーテルセット、血栓吸引カテーテル 他
輸液関連製品	輸液セット、IVカメラ 他
検査製品	ネオチューブ、採血針 他
糖尿病関連製品	インスリン針、血糖測定器（海外向け）、ランセット
SD関連製品	補助人工心臓、人工肺
その他	医療器械、血液関連製品、培養商品、手袋 他
医薬品区分	
経口剤	経口剤
注射剤・輸液	シリンジキット、バイアル製剤、PLW、粉末透析剤、透析液 他
外用剤・貼付剤	外用剤、貼付剤
その他・体外診断薬 等	診断薬、医薬品、血糖測定器 他
ファーマパッケージング区分	
生地管関連	医薬用生地管、非医療用生地管、硝子原料
アンプル硝子	アンプル（シングルチップ、ダブルチップ）
バイアル硝子	バイアル（ブローバック、スクリュー、滅菌済等）
シリンジ硝子	シリンジ（ルアーロック、ルアースリップ、滅菌済等）
ゴム栓・栓体類	ゴム栓、栓体、栓・キャップ類
プラスチック容器	プラスチック品
魔法瓶	魔法瓶用硝子
その他	硝子容器その他、特殊硝子容器、カートリッジ硝子その他など

製商品別売上高（1）

（億円）

事業分類	全社				海外				日本				
	2019年度	2020年度	増減額	増減率	2019年度	2020年度	増減額	増減率	2019年度	2020年度	増減額	増減率	
【医療機器】	ダイアライザ	721.7	712.7	△9.0	△1.2%	510.9	495.6	△15.3	△3.0%	210.8	217.1	+6.3	+3.0%
	透析機器	199.3	198.9	△0.3	△0.2%	107.3	99.3	△8.0	△7.5%	91.9	99.6	+7.7	+8.3%
	その他透析関連	294.2	313.7	+19.5	+6.6%	223.2	239.0	+15.8	+7.1%	71.0	74.6	+3.6	+5.1%
	透析関連製品計	1,215.3	1,225.5	+10.1	+0.8%	841.5	834.0	△7.5	△0.9%	373.8	391.4	+17.6	+4.7%
	注射針類	354.1	349.6	△4.5	△1.3%	216.8	208.2	△8.6	△4.0%	137.2	141.3	+4.1	+3.0%
	バスキューラ関連製品	300.6	288.3	△12.3	△4.1%	34.3	35.2	+0.9	+2.7%	266.2	253.0	△13.2	△5.0%
	輸液関連製品	147.6	150.3	+2.7	+1.8%	43.9	49.4	+5.5	+12.6%	103.6	100.8	△2.8	△2.7%
	検査製品	100.1	97.9	△2.2	△2.2%	69.6	65.3	△4.4	△6.3%	30.4	32.6	+2.2	+7.1%
	糖尿病関連製品	94.7	87.6	△7.1	△7.5%	75.9	71.9	△4.1	△5.4%	18.8	15.7	△3.1	△16.2%
	SD関連製品	34.3	37.0	+2.7	+7.8%	9.4	4.8	△4.6	△48.9%	24.8	32.1	+7.3	+29.3%
	その他	236.5	341.3	+104.8	+44.3%	111.7	197.9	+86.2	+77.2%	124.8	143.4	+18.6	+14.9%
部門計	2,483.6	2,577.8	+94.1	+3.8%	1,403.5	1,467.0	+63.5	+4.5%	1,080.1	1,110.8	+30.7	+2.8%	
【医薬品(自社)】	経口剤	421.0	420.2	△0.8	△0.2%	33.3	37.9	+4.6	+13.7%	387.6	382.3	△5.3	△1.4%
	注射剤・輸液	338.5	355.6	+17.1	+5.1%	47.2	58.4	+11.2	+23.6%	291.2	297.2	+6.0	+2.0%
	外用剤・貼付剤	39.8	52.7	+12.9	+32.2%	0.0	0.0	0.0	-	39.8	52.7	+12.9	+32.2%
	その他・体外診断薬等	98.2	92.9	△5.3	△5.4%	2.5	2.0	△0.5	△19.0%	95.6	90.8	△4.8	△5.0%
	部門計	897.7	921.7	+23.9	+2.7%	83.2	98.4	+15.2	+18.3%	814.5	823.2	+8.7	+1.1%
【医薬品(受託)】	経口剤	303.8	292.1	△11.6	△3.8%	1.6	1.5	△0.1	△5.1%	302.2	290.6	△11.6	△3.8%
	注射剤・輸液	315.1	314.2	△0.9	△0.3%	1.2	1.0	△0.2	△16.1%	313.8	313.2	△0.7	△0.2%
	外用剤・貼付剤	62.1	57.0	△5.1	△8.2%	0.4	1.7	+1.3	+297.9%	61.7	55.3	△6.4	△10.3%
	その他・体外診断薬等	22.5	25.3	+2.9	+12.7%	0.7	3.4	+2.6	+339.4%	21.7	21.9	+0.2	+1.1%
	部門計	703.6	688.8	△14.8	△2.1%	4.0	7.6	+3.6	+89.7%	699.5	681.2	△18.4	△2.6%

製商品別売上高（2）

（億円）

事業分類	全社				海外				日本				
	2019年度	2020年度	増減額	増減率	2019年度	2020年度	増減額	増減率	2019年度	2020年度	増減額	増減率	
【ファーマ パッケージング】	生地管関連	96.3	94.3	△2.0	△2.1%	73.9	71.9	△2.0	△2.7%	22.4	22.4	△0.0	△0.1%
	アンブル硝子	37.7	37.9	+0.2	+0.5%	37.6	37.8	+0.2	+0.5%	0.1	0.1	△0.0	△1.0%
	バイアル硝子	103.0	121.0	+18.0	+17.5%	89.0	104.0	+15.0	+16.8%	13.9	16.9	+3.0	+21.5%
	シリンジ硝子	38.3	43.5	+5.2	+13.7%	38.1	43.5	+5.4	+14.1%	0.1	-	△0.1	△87.9%
	ゴム栓・栓体類	15.9	17.6	+1.8	+11.0%	3.6	5.9	+2.3	+64.5%	12.3	11.7	△0.6	△4.7%
	プラスチック容器	19.1	19.9	+0.8	+4.1%	1.4	1.4	+0.0	+1.9%	17.7	18.4	+0.8	+4.3%
	魔法瓶	6.1	4.3	△1.8	△29.7%	-	-	-	-	6.1	4.3	△1.8	△29.7%
	その他	15.3	15.5	+0.2	+1.4%	11.6	11.6	+0.1	+0.6%	3.7	3.8	+0.1	+3.8%
部門計	332.1	354.4	+22.3	+6.7%	255.4	276.4	+21.0	+8.2%	76.6	78.0	+1.3	+1.7%	
【再生医療】	再生医療等製品	2.4	4.2	+1.7	+70.1%	-	-	-	-	2.4	4.2	+1.7	+70.1%
【その他】	生産機械販売・不動産賃貸	5.4	8.5	+3.0	+55.2%	1.8	0.5	△1.2	△68.7%	3.6	7.9	+4.3	+115.7%
連結合計		4,425.1	4,555.5	+130.4	+2.9%	1,748.0	1,850.1	+102.1	+5.8%	2,677.0	2,705.4	+28.4	+1.1%

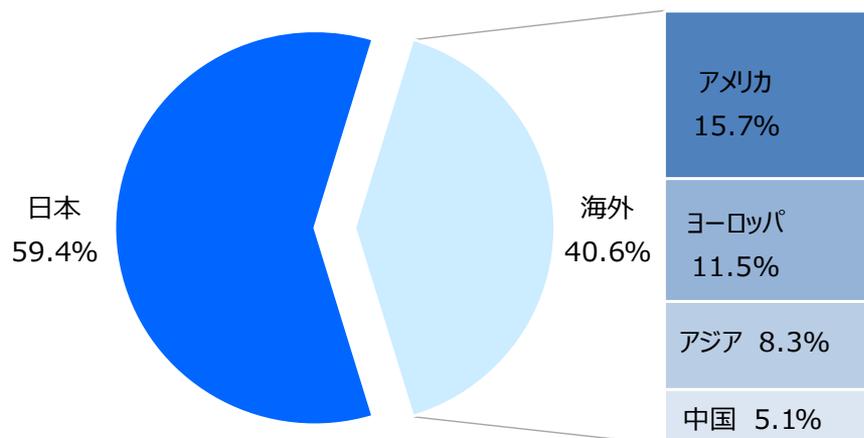
地域別売上 売上高・構成比

【地域別売上高】

(億円)

	2019年度	2020年度	増減額	増減率	2021年度 予想
日本	2,677.0	2,705.4	+28.4	+1.1%	2,888.0
海外計	1,748.0	1,850.1	+102.1	+5.8%	2,062.0
アメリカ	641.5	715.7	+74.2	+11.6%	731.0
ヨーロッパ	508.0	521.6	+13.6	+2.7%	595.0
アジア	377.6	379.5	+1.9	+0.5%	437.5
中国	220.8	233.1	+12.3	+5.6%	298.5
合計	4,425.1	4,555.5	+130.4	+2.9%	4,950.0

【地域別売上構成比】



為替感応度

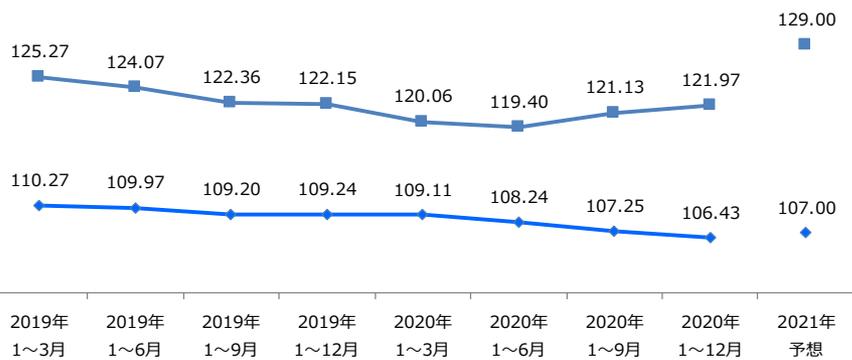
【1円変動による年間影響額】

(億円)

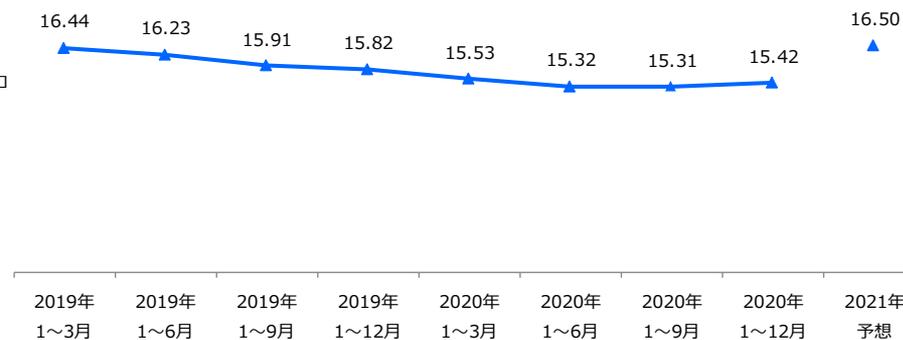
	ドル	ユーロ	元
売上高	7.4	4.4	14.2
営業利益	0.4	1.7	9.4

【期中平均レート】

ドル・ユーロ



元



販売費および一般管理費

【販売費および一般管理費】

(億円)

項目	2019年度	2020年度		増減	増減率
		実績	構成比		
人件費	322.2	361.3	32.5%	+39.1	+12.1%
旅費交通費	48.2	25.4	2.3%	△22.8	△47.3%
販促費(※1)	69.9	66.6	6.0%	△3.3	△4.7%
物流費(※2)	124.5	127.5	11.5%	+3.0	+2.4%
研究開発費	168.4	183.6	16.5%	+15.2	+9.0%
償却費(※3)	106.5	107.8	9.7%	+1.3	+1.2%
その他	237.8	239.7	21.6%	+1.9	+0.8%
合計	1,077.9	1,112.1	100.0%	+34.2	+3.2%

(※1) 販売手数料・見本品費・広告宣伝費・交際接待費

(※2) 運送費・保管料

(※3) 減価償却費・のれん償却費・開発償却費

➤ 販売費および一般管理費

人件費 前年は決算賞与不支給

旅費交通費 出張の削減により減少

➤ 研究開発費

医療 前年に欧州子会社で累積費用10億円を一括計上
※実質的な今期の費用は前年と同水準

医薬 ニプロファーマの新注射薬と全星薬品工業の経口薬の費用増加

【研究開発費(連結)】

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度 予想
医療	97.2	87.9	115.5
医薬	84.7	98.5	85.5
合計	182.0	186.5	201.0



設備投資額・減価償却費

(億円)

	設備投資額 (※)				減価償却費			
	2019年度	2020年度	2020年度 予想	2021年度 予想	2019年度	2020年度	2020年度 予想	2021年度 予想
医療関連	241.0	146.6	353.0	152.0	172.9	183.0	171.5	204.0
医薬関連	133.1	132.7	181.0	199.0	120.9	121.6	127.0	140.0
ファーマパッケージング	60.0	35.8	40.0	123.0	43.1	42.4	38.0	42.5
その他	144.4	12.3	22.0	21.0	49.7	51.3	53.5	38.5
合計	578.6	327.5	596.0	495.0	386.8	398.4	390.0	425.0

(※) 設備投資額は検収ベース

【2020年度実績】

➤ 設備投資額

医療は、新型コロナウイルスの影響でインドのダイアライザ製造ラインの工期遅れが発生し、投資額が大きく減少

➤ 減価償却費

医療は、再生医療事業と中南米の透析センター買収に伴うのれんの償却費が対前年で増加

【2021年度予想】

➤ 設備投資額

医薬は、シリンジラインの増設のため、対前年で増加

ファーマパッケージングは、ドイツのシリンジラインの増設、フランスのバイアルラインの増設・生地管窯の定期修理のため、対前年で増加

主要会社別 期中の設備投資

(億円)

会社名	金額	主な内容
ニプロ(株)	46.6	大館工場 9.6 ダイアライザ関連設備、第二拡張用地 総合研究所 7.4 試作金型、東京大学・ニプロ研究開発センターの実験室建築工事 等 愛知工場 5.6 バスチン製造設備 国内事業部 3.4 透析装置、次亜塩素酸水専用大型噴霧器用金型 等
ニプロファーマ(株)	119.4	大館工場 35.4 シリンジ組立機、高精細自動検査機、電子線照射装置 等 伊勢工場 19.8 QC棟実装工事 等 埼玉工場 16.2 錠剤用UVレザーマーキング装置、流動層造粒・コーティング機 等 鏡石工場 13.5 第一固形剤棟増築部生産設備 等
ニプロメディカルコーポレーション	41.2	透析医療機器、透析クリニック不動産・設備 等
ニプロ医工(株)	19.2	近藤工場増改築工事関連、特殊針自動組立装置 等
ニプロファーマパッケージングジャーマニー	16.6	バイアルの製造設備 等
ニプロベトナム	14.7	押出・成形用生産設備 7.3 PSV用生産設備 2.6 血液回路用生産設備 2.0 滅菌関連設備 1.1 等

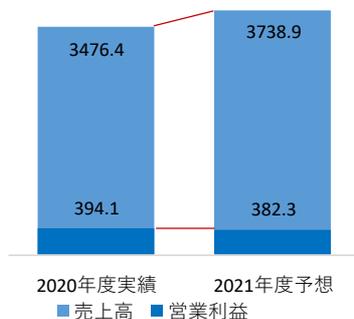


通期予想

医療関連事業

医療関連事業 売上高内訳

	2020年度 実績	2021年度 予想	増減率
国内 医療機器	1109.2	1273.6	14.8%
医薬品	823.4	813.5	-1.2%
国際 B2B	191.1	201.6	5.5%
アメリカ	573.2	590.8	3.1%
ヨーロッパ	339.9	382.6	12.6%
アジア	216.9	241.7	11.4%
中国	149.2	200.0	34.0%
工場 直接販売	73.5	35.1	-52.2%
医療 計	3476.4	3738.9	7.6%
営業利益	394.1	382.3	-3.0%



売上高

日本では、体外診断薬の販売低下により医薬品は対前年10億円減少するが、ダイアライザとワクチン用シリンジ、カテーテル、補助心臓・人工肺の販売増により医療機器は対前年164億円増収予想。

アジアと中国でダイアライザ、北米で透析装置の販売を強化し、全地域で透析センターの運営を拡大。また、米州では、VAS製品の販売拡大により146億円増収予想。

営業利益

日本では、ダイアライザとシリンジ、補助心臓・人工肺で増加もカテーテルと医薬品、再生医療で減少により微増収予想。

海外では、売上高増も、運送費の大幅増額により、前年並み。

工場では、中国のダイアライザ新ライン増設や為替の影響により減収予想。

医薬関連事業

医薬関連事業 売上高内訳

	2020年度 実績	2021年度 予想	増減率
GE品	405.2	450.1	11.1%
先発・長期収載品	239.7	269.9	12.6%
OTC・原薬	40.6	43.0	5.9%
医薬品受託 計	685.6	763.0	11.3%
営業利益	100.7	102.3	1.6%



売上高

GEの既存品が5億円増加し、長期収載の新規品が30億円増加、また、2021年度よりJMIファーマが医療関連から医薬関連に組替えたことによりGE品で対前年40億円が増収予想。

営業利益

セグメント組換えによるJMIファーマの増益は4.7億円。既存品、新規品ともに売上高は増加するが、対前年で3.1億円減収予想。

ファーマパッケージング事業

ファーマパッケージング事業 売上高内訳

	2020年度 実績	2021年度 予想	増減率
日本	111.8	109.6	-2.0%
ヨーロッパ	136.4	170.0	24.6%
アメリカ	88.2	93.4	5.9%
中国	38.5	62.8	63.1%
インド	11.4	10.5	-7.9%
ファーマPKG 計	386.5	446.3	15.5%
営業利益	19.9	21.2	6.5%



売上高

日本では対前年並み、欧州、米州、中国ではワクチン用バイアルとバイオ製剤用シリンジにより増収、インドでは釜の修繕での生産高減少により減収予想。

営業利益

ドイツでのシリンジライン、フランスでのバイアルと釜の修繕により製造原価が増加し、売上高が大きく増加するも、1.3億円の増収予想。

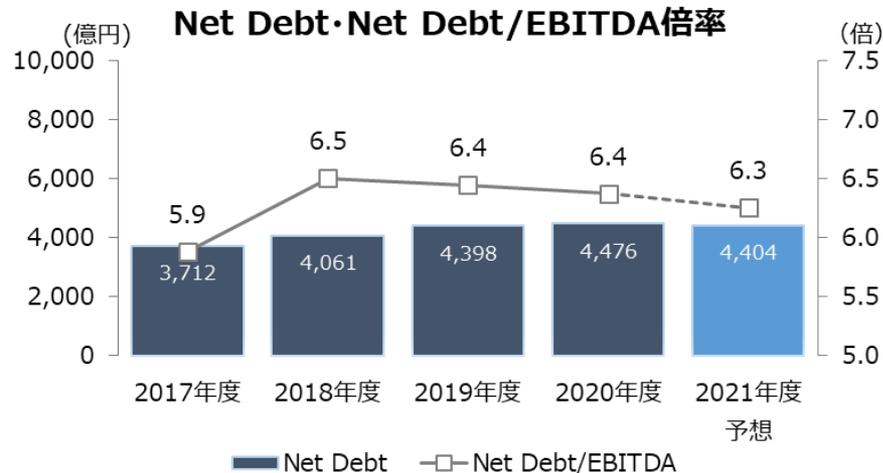


中期経営計画における主要KPI - ①

2024年度に向けたガイドライン

成長性	売上高成長率	年平均7.0%以上
収益性	営業利益率	9.0%以上

財務健全性	EBITDA純有利子負債倍率	4倍台
-------	----------------	-----



➤ 売上高

2017年度から2020年度までの売上高年平均成長率は4.8%。
2020年度は上期にコロナの影響からカテーテルや抗菌薬の販売が低下したものの下期に挽回し対前年2.9%増となった。
2021年度はコロナの影響が縮小し、医療機器、医薬品とも新製品を中心に販売を拡大し、8.6%の成長と予想。

➤ 営業利益率

2018年度以降、営業利益率は少しずつ改善。
2020年度はコロナの影響から旅費交通費と販促費を抑制したものの来期以降の販売拡大に向けた承認申請費用(研究開発費)の増加により対前年と同程度となった。
2021年度は運送費が高騰しており、5.6%を予想。

➤ 純有利子負債

2020年度までは設備投資の増加により純有利子負債額は増加傾向。
2020年度も対前年で78億円の増加となった。
2021年度は設備投資を抑制し、純有利子負債額の減少を目指す。

➤ Net Debt/EBITDA倍率

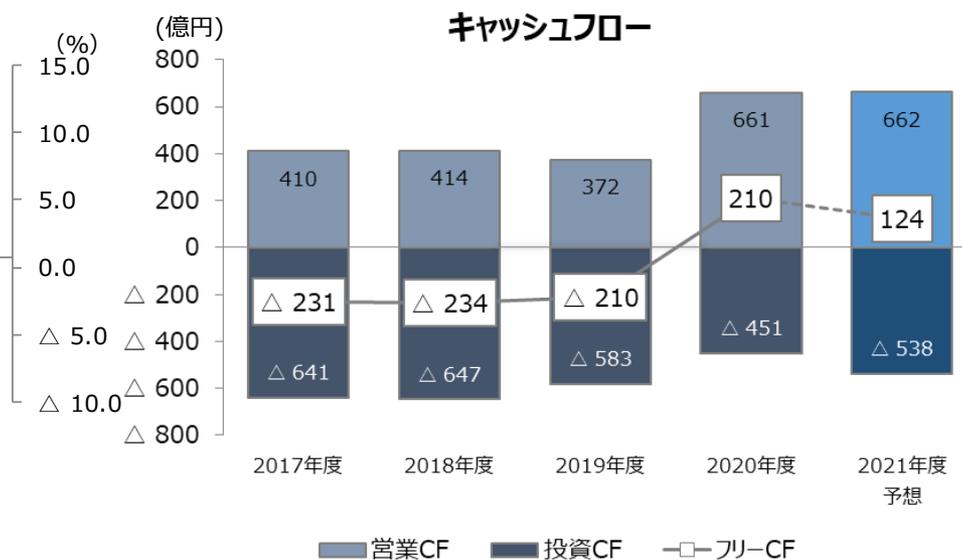
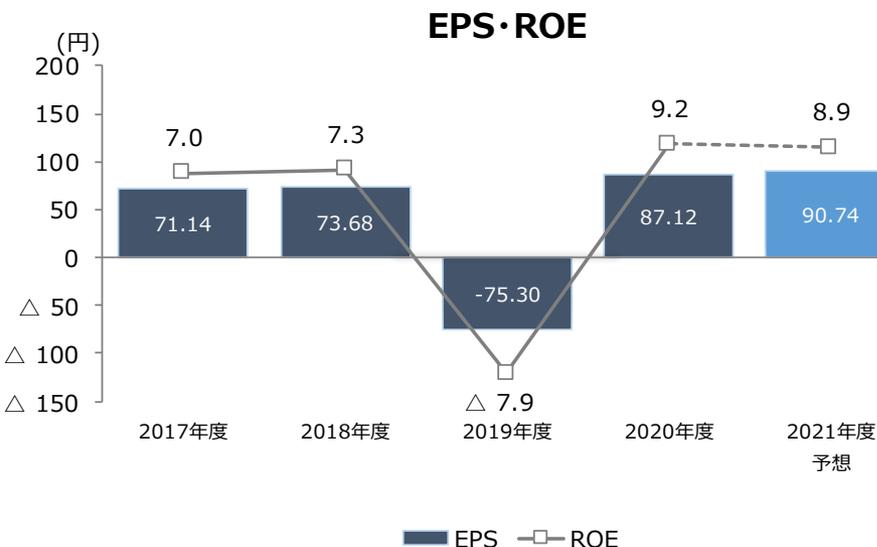
2017年度から2018年度は営業利益の減少によりEBITDA倍率は増加したが、それ以降営業利益の増加によりEBITDA倍率は減少傾向。
2021年度のEBITDAは2020年度と同程度で推移するものの、純有利子負債の減少によりEBITDA倍率を6.3倍まで減少させる予想。

中期経営計画における主要KPI - ②

2024年度に向けたガイドライン

資産効率 ROE 14.0%

投資効率 フリーキャッシュフロー 黒字化



➤ ROE

投資有価証券の評価損を特別損失で計上した2019年度を除き、2017年度から2020年度までROEは増加傾向。2020年度は売上高の成長に加え、製造原価の低減、為替損益が黒字に転じたことから当期純利益が増加、2019年度に自己資本が減少していたこともありROEは9.2%と大きく改善。2021年度は売上を増加させ、経費削減に努め、当期純利益は対前年で4億円の増益を計画、それによりEPS90.74円、ROE8.9%の予想。

➤ フリーCF

2017年度から2019年度まで投資CFでのマイナスが営業CFのプラスを上回りフリーCFは赤字が続いていた。2020年度は税金等調整前当期利益の増益に加え、債権流動化、決算賞与の不支給、法人税の減額・還付などにより営業CFが大幅に増加、固定資産のリース資産化や投資有価証券の売却などにより投資CFが減少したことで、フリーCFは210億円と黒字転換を達成。2021年度は営業CFは前年同程度で推移、リース資産化や有価証券の売却等で投資CFの削減を継続し、フリーCFは124億円の黒字予想。

本資料における予測数値等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手可能な情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいています。

実際の業績等は今後の様々な要因により、本資料の記載事項と大きく異なる可能性があります。

